

# 令和6年全国家計構造調査

## 家計収支に関する結果

令和8年2月

宮城県企画部統計課



## 令和6年全国家計構造調査の概要

### 1 調査の目的

家計における消費、所得、資産及び負債の実態を総合的に把握し、世帯の所得分布及び要否の水準、構造を全国的及び地域別に明らかにすることを目的とする。

### 2 調査期間

令和6年10月及び11月

### 3 調査地域

県内全市、柴田町、川崎町、山元町、利府町、加美町、涌谷町

### 4 調査対象

調査地域における調査単位区内から無作為に抽出した1,284世帯が対象

### 5 調査事項

「家計簿」、「年収・貯蓄調査票」及び「世帯票」の3種類の調査票により、日々の家計の収入と支出、年間収入、預貯金などの金融資産、借入金、世帯構成、世帯員の就業状況・就学状況、現住居の状況（床面積など）、現住居以外の住宅・宅地の保有状況などを調査した。

## 利用上の注意

### 利用に当たっては以下に留意願います。

- ① 本資料は、先に総務省統計局が公表した「令和6年全国家計構造調査 家計収支に関する結果」から、宮城県分を取りまとめたものです。
- ② 集計値は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しないこと。
- ③ 10月と11月の収支を対象とした調査であり、通年の収支を調査したものではなく、10月と11月の収支内容がそのまま年間の収支内容を代表するものではないこと。
- ④ 宮城県内の調査は、1,284世帯を無作為抽出しているが、飲食店等の併用住宅、外国人世帯、学生の単身世帯、15歳未満の単身世帯、社会施設・矯正施設の入所者、病院等の入院者、自衛隊の営舎内居住者等を、世帯としての収入と支出を正確に計ることが難しい等の理由で調査対象から除外していること。
- ⑤ 宮城県内で1,284世帯を対象とした調査であり、一般的に標本規模が小さくなるほど標本誤差が大きくなること。
- ⑥ 集計に当たっては、全国家計構造調査以外の統計調査のデータも活用されていることがあること。
- ⑦ 利用上の注意及び集計方法の詳細並びに用語の解説については総務省統計局のホームページを参照ください。

# 家計収支に関する結果

## 1 総世帯

### (1) 総世帯の支出

前回(令和元年)と比較して支出割合が上昇したのは、「食料(外食を除く)」、「外食」、「保健医療」など

- ・総世帯の1世帯当たり令和6年10・11月の1か月平均消費支出(以下「消費支出」という。)は、250,045円で、前回の243,617円と比べると、2.6%増加した。
- ・消費支出は全国を下回っている。
- ・消費支出に占める費目割合をみると、「食料(外食を除く)」(23.5%)、「交通・通信」(14.9%)、「その他の消費支出(交際費を除く)」(10.8%)が高くなっている。
- ・費目別割合を前回と比べると、「食料(外食を除く)」、「外食」、「保健医療」等が上昇しており、「その他の消費支出(交際費を除く)」、「被服及び履物」、「交通・通信」、「教養娯楽」等が低下している。

図1-1 費目別消費支出の割合(総世帯)

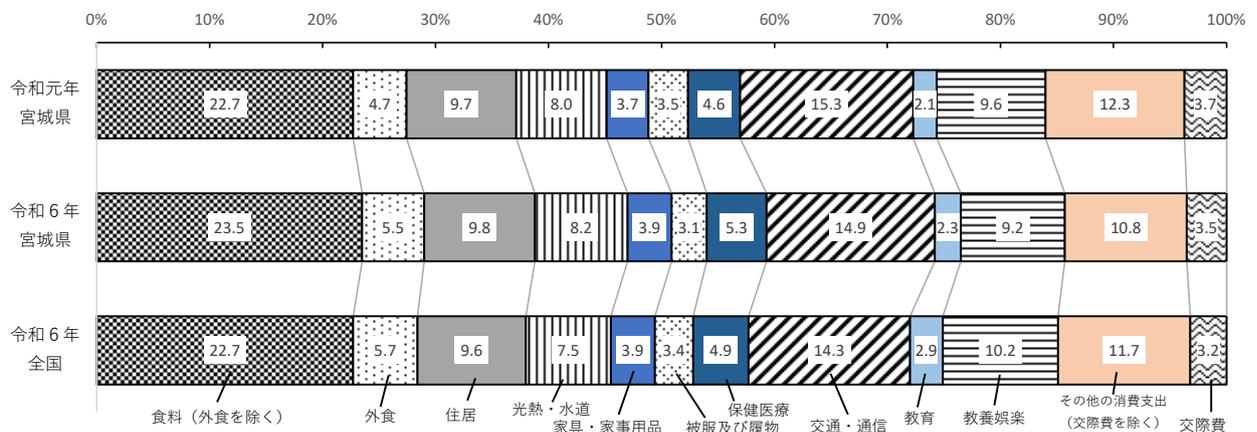


表1-2 費目別消費支出(総世帯)

項目	宮城県						全国	
	令和元年		令和6年		増減率 上昇・低下幅		令和6年	
	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数(%)	構成比(ポイント)	実数	構成比(%)
世帯主の平均年齢(歳)	56.9	-	56.4	-	(-0.5)	-	57.1	-
平均世帯人員(人)	2.47	-	2.2	-	(-0.27)	-	2.15	-
消費支出(円)	243,617	100.0	250,045	100.0	2.6	-	251,242	100.0
食料(外食を除く)	55,397	22.7	58,737	23.5	6.0	0.8	57,046	22.7
外食	11,364	4.7	13,644	5.5	20.1	0.8	14,438	5.7
住居	23,586	9.7	24,616	9.8	4.4	0.1	24,173	9.6
光熱・水道	19,605	8.0	20,521	8.2	4.7	0.2	18,896	7.5
家具・家事用品	8,901	3.7	9,872	3.9	10.9	0.2	9,817	3.9
被服及び履物	8,501	3.5	7,691	3.1	-9.5	-0.4	8,528	3.4
保健医療	11,320	4.6	13,375	5.3	18.2	0.7	12,286	4.9
交通・通信	37,338	15.3	37,188	14.9	-0.4	-0.4	35,878	14.3
教育	5,148	2.1	5,714	2.3	11.0	0.2	7,246	2.9
教養娯楽	23,485	9.6	22,894	9.2	-2.5	-0.4	25,591	10.2
その他の消費支出(交際費を除く)	29,925	12.3	27,095	10.8	-9.5	-1.5	29,289	11.7
交際費	9,049	3.7	8,698	3.5	-3.9	-0.2	8,054	3.2

注 世帯主の平均年齢及び平均世帯人員の増減率に記載の( )内は、前回との差

## (2) 勤労者世帯及び無職世帯の収入と支出

- ・総世帯のうち勤労者世帯の1世帯当たり1か月平均実収入は469,788円、可処分所得は392,978円、消費支出は259,072円となっており、可処分所得に占める消費支出の割合は、65.9%となっている。
- ・総世帯のうち無職世帯の1世帯当たり1か月平均実収入は246,592円、可処分所得は219,837円、消費支出は212,360円となっており、可処分所得に占める消費支出の割合は、96.6%となっている。
- ・勤労者と無職世帯の実収入を比べると、無職世帯の実収入(246,592円)は勤労者世帯の実収入(469,788円)の52.5%であるのに対し、無職世帯の消費支出(212,360円)は、勤労者世帯の消費支出(259,072円)の82.0%となっている。

図1-3 勤労者世帯の実収入及び消費支出(総世帯)

(世帯主の平均年齢: 46.6歳、平均世帯人員: 2.19人)

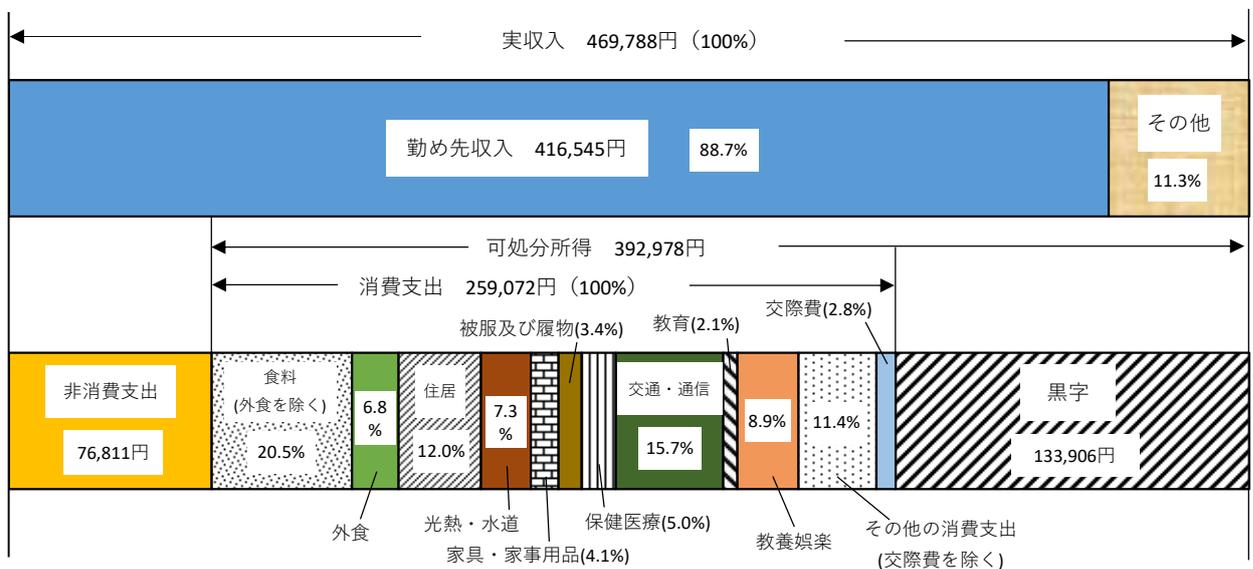
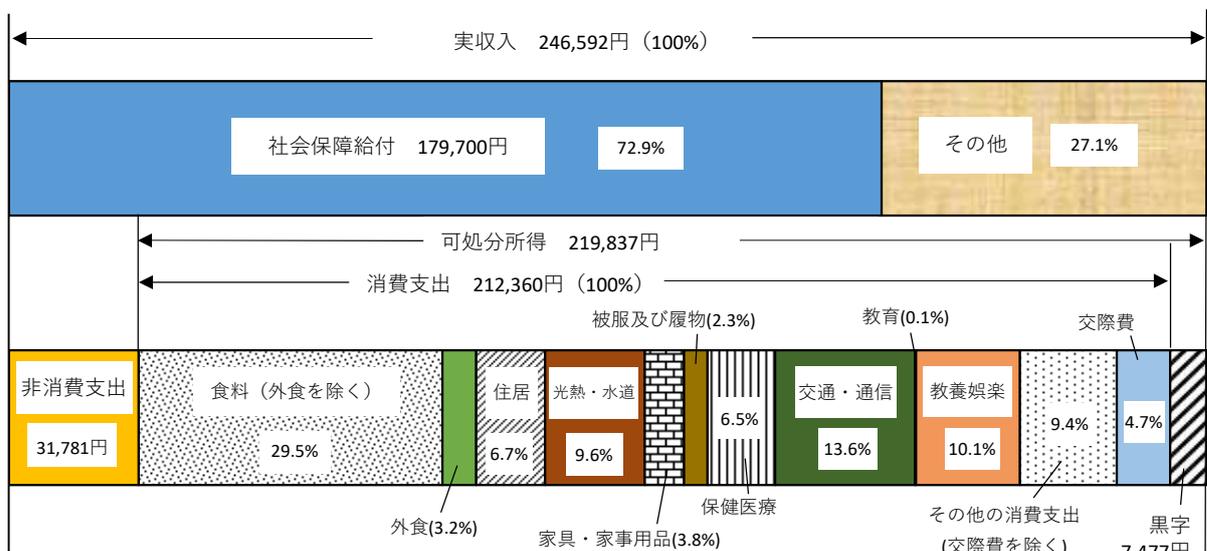


図1-4 無職世帯の実収入及び消費支出(総世帯)

(世帯主の平均年齢: 73.0歳、平均世帯人員: 1.92人)



## 2 二人以上の世帯

### (1) 二人以上の世帯の支出

前回と比較して支出割合が上昇したのは、「食料(外食を除く)」、「家具・家事用品」など

- ・二人以上の世帯の消費支出は1世帯当たり302,588円で、前回の279,345円と比べると、8.3%増加した。
- ・消費支出は全国を上回っている。
- ・消費支出に占める費目割合をみると、「食料(外食を除く)」(25.2%)、「交通・通信」(15.3%)、「その他の消費支出(交際費を除く)」(12.0%)が高くなっている。
- ・費目別割合を前回と比べると、「食料(外食を除く)」、「家具・家事用品」等が上昇しており、「教養娯楽」、「住居」などが低下している。

図2-1 費目別消費支出の割合(二人以上の世帯)

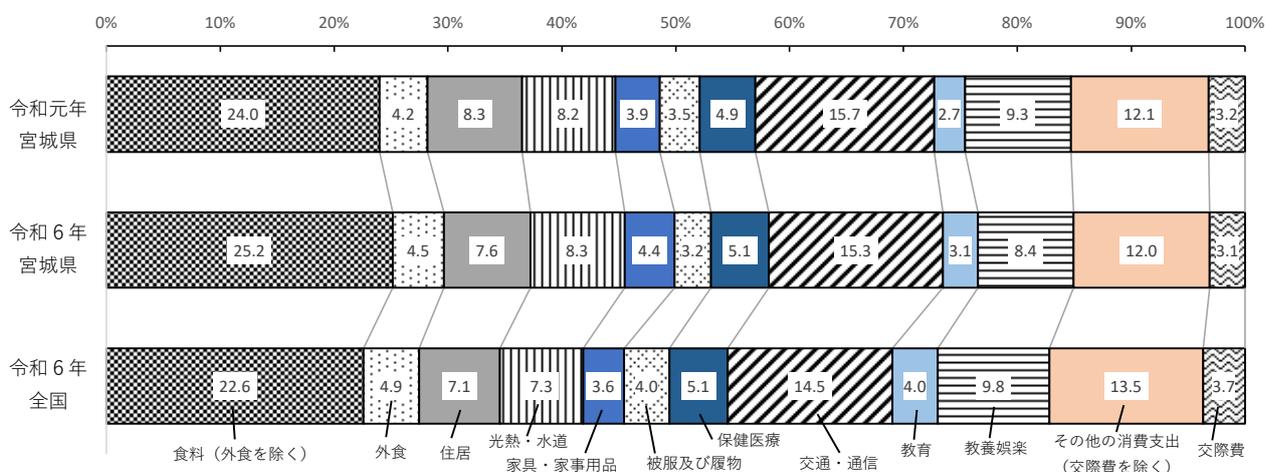


表2-2 費目別消費支出(二人以上の世帯)

項目	宮城県						全国	
	令和元年		令和6年		増減率 上昇・低下幅		令和6年	
	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数(%)	構成比(ポイント)	実数	構成比(%)
世帯主の平均年齢(歳)	58.2	-	59.0	-	(0.8)	-	58.1	-
平均世帯人員(人)	3.12	-	2.98	-	(-0.14)	-	2.98	-
消費支出(円)	279,345	100.0	302,588	100.0	8.3	-	279,066	100.0
食料(外食を除く)	66,974	24.0	76,116	25.2	13.7	1.2	62,932	22.6
外食	11,834	4.2	13,471	4.5	13.8	0.3	13,714	4.9
住居	23,156	8.3	22,895	7.6	-1.1	-0.7	19,702	7.1
光熱・水道	23,038	8.2	25,038	8.3	8.7	0.1	20,378	7.3
家具・家事用品	10,855	3.9	13,407	4.4	23.5	0.5	9,915	3.6
被服及び履物	9,828	3.5	9,625	3.2	-2.1	-0.3	11,119	4.0
保健医療	13,709	4.9	15,525	5.1	13.2	0.2	14,188	5.1
交通・通信	43,759	15.7	46,169	15.3	5.5	-0.4	40,558	14.5
教育	7,424	2.7	9,437	3.1	27.1	0.4	11,232	4.0
教養娯楽	25,936	9.3	25,269	8.4	-2.6	-0.9	27,284	9.8
その他の消費支出(交際費を除く)	33,815	12.1	36,251	12.0	7.2	-0.1	37,806	13.5
交際費	9,017	3.2	9,386	3.1	4.1	-0.1	10,239	3.7

注 世帯主の平均年齢及び平均世帯人員の増減率に記載の( )内は、前回との差

## (2) 勤労者世帯及び無職世帯の収入と支出

- ・二人以上の世帯のうち勤労者世帯の1世帯当たり1か月平均実収入は568,918円、可処分所得は473,247円、消費支出は314,126円となっており、可処分所得に占める消費支出の割合は、66.3%となっている。
- ・二人以上の世帯のうち、無職世帯の1世帯当たり1か月平均実収入は317,377円、可処分所得は279,500円、消費支出は260,255円となっており、可処分所得に占める消費支出の割合は、93.1%となっている。
- ・勤労者と無職世帯の実収入を比べると、無職世帯の実収入(317,377円)は勤労者世帯の実収入(568,918円)の55.8%であるのに対し、無職世帯の消費支出(260,255円)は、勤労者世帯の消費支出(314,126円)の82.9%となっている。

図2-3 勤労者世帯の実収入及び消費支出(二人以上の世帯)

(世帯主の平均年齢: 49.8歳、平均世帯人員: 3.05人)

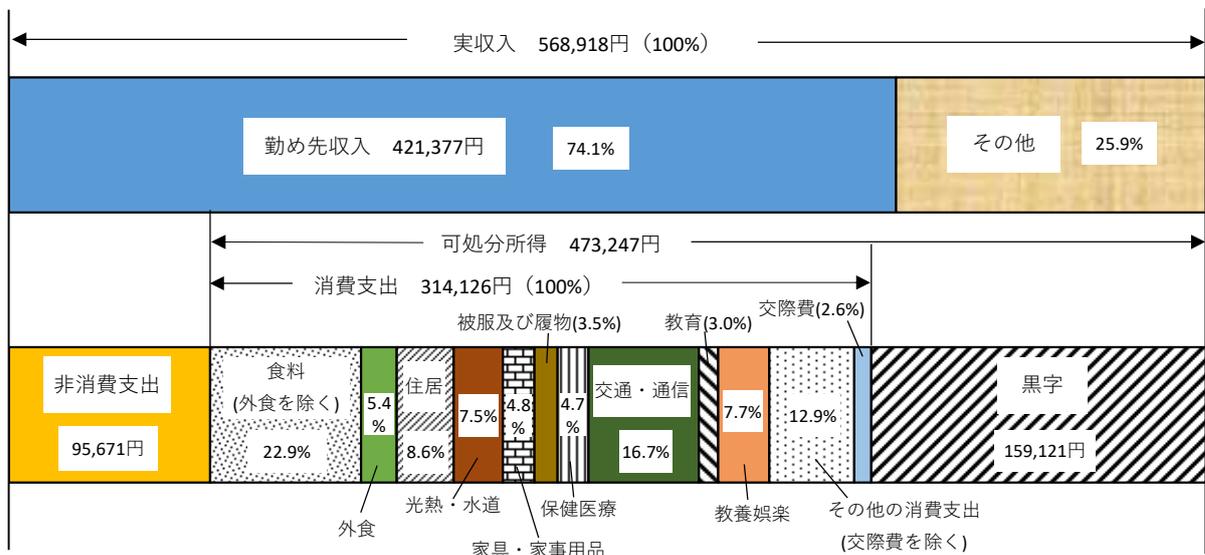
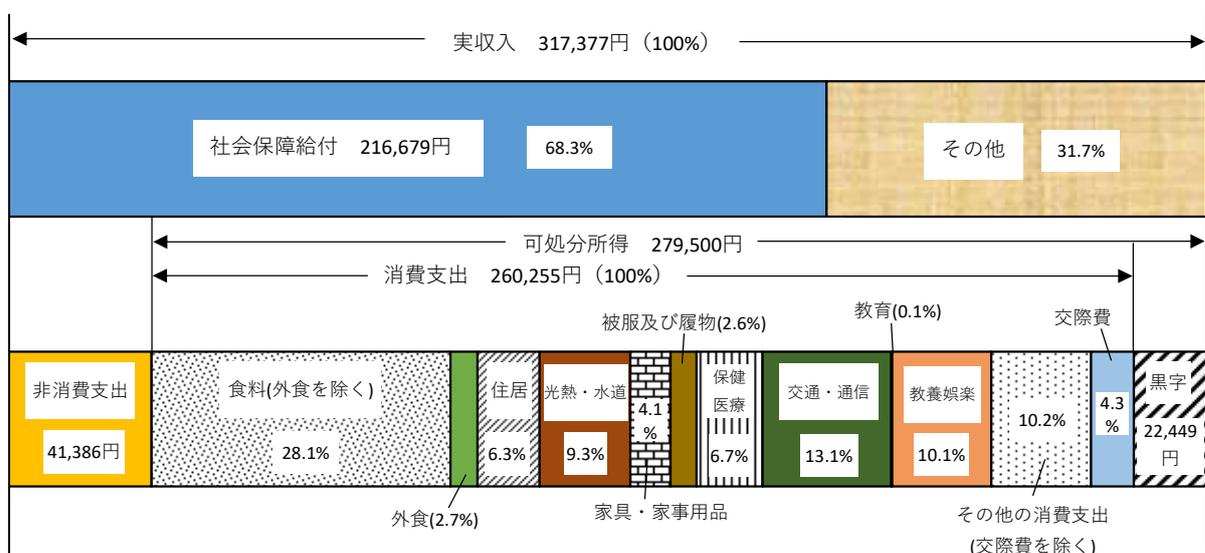


図2-4 無職世帯の実収入及び消費支出(二人以上の世帯)

(世帯主の平均年齢: 74.7歳、平均世帯人員: 2.59人)



### 3 単身世帯

#### (1) 単身世帯の支出

前回と比較して支出割合が上昇したのは、「保健医療」、「外食」など

- ・単身世帯の消費支出は1世帯当たり169,404円で、前回の162,829円と比べると、4.0%増加した。
- ・消費支出は全国を下回っている。
- ・消費支出に占める費目割合をみると、「食料（外食を除く）」（18.9%）、「住居」（16.1%）、「交通・通信」（13.8%）、「教養娯楽」（11.4%）が高くなっている。
- ・費目別割合を前回と比べると、「保健医療」、「外食」等が上昇しており、「その他の消費支出（交際費を除く）」、「交際費」などが低下している。

図3-1 費目別消費支出の割合（単身世帯）

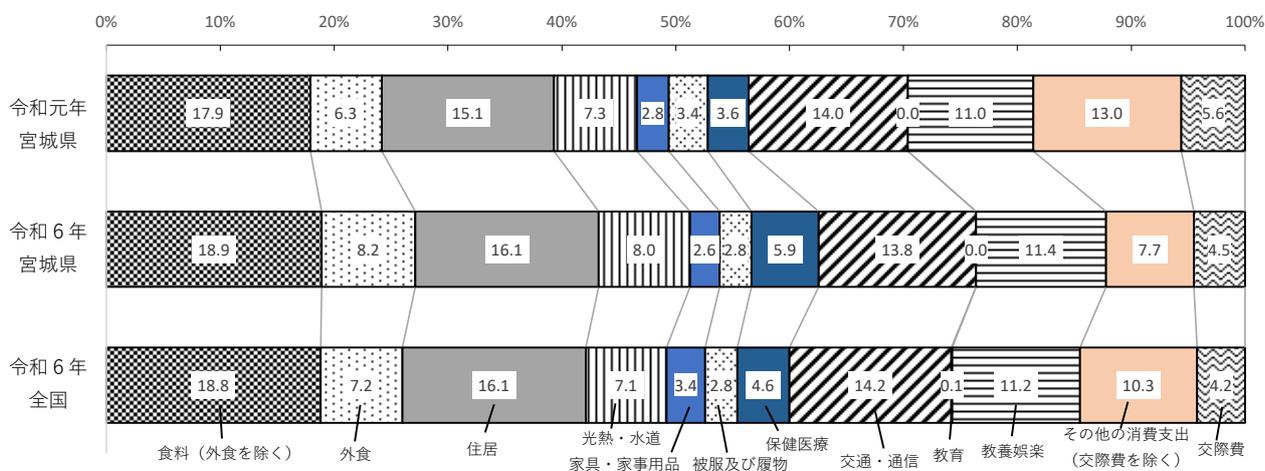


表3-2 費目別消費支出（単身世帯）

項目	宮城県						全国	
	令和元年		令和6年		増減率 上昇・低下幅		令和6年	
	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数(%)	構成比(ポイント)	実数	構成比(%)
世帯主の平均年齢(歳)	53.8	-	52.5	-	(-1.3)	-	54.6	-
平均世帯人員(人)	1.00	-	1.00	-	(0.00)	-	1.00	-
消費支出(円)	162,829	100.0	169,404	100.0	4.0	-	174,147	100.0
食料(外食を除く)	29,218	17.9	32,064	18.9	9.7	1.0	32,737	18.8
外食	10,303	6.3	13,911	8.2	35.0	1.9	12,457	7.2
住居	24,558	15.1	27,257	16.1	11.0	1.0	27,989	16.1
光熱・水道	11,841	7.3	13,589	8.0	14.8	0.7	12,293	7.1
家具・家事用品	4,482	2.8	4,448	2.6	-0.8	-0.2	5,970	3.4
被服及び履物	5,501	3.4	4,723	2.8	-14.1	-0.6	4,854	2.8
保健医療	5,917	3.6	10,075	5.9	70.3	2.3	7,983	4.6
交通・通信	22,817	14.0	23,404	13.8	2.6	-0.2	24,719	14.2
教育	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	185	0.1
教養娯楽	17,942	11.0	19,249	11.4	7.3	0.4	19,560	11.2
その他の消費支出(交際費を除く)	21,129	13.0	13,042	7.7	-38.3	-5.3	18,017	10.3
交際費	9,121	5.6	7,642	4.5	-16.2	-1.1	7,383	4.2

注 世帯主の平均年齢及び平均世帯人員の増減率に記載の( )内は、前回との差

## (2) 勤労者世帯及び無職世帯の収入と支出

- ・単身世帯のうち勤労者世帯の1世帯当たり1か月平均実収入は332,904円、可処分所得は282,137円、消費支出は183,050円となっており、可処分所得に占める消費支出の割合は、64.9%となっている。
- ・単身世帯のうち、無職世帯の1世帯当たり1か月平均実収入は149,544円、可処分所得は138,037円、消費支出は146,694円となっており、消費支出が可処分所得を上回っている。
- ・勤労者と無職世帯の実収入を比べると、無職世帯の実収入（149,544円）は勤労者世帯の実収入（332,904円）の44.9%であるのに対し、無職世帯の消費支出（146,694円）は、勤労者世帯の消費支出（183,050円）の80.1%となっている。

図3-3 勤労者世帯の実収入及び消費支出（単身世帯）

（世帯主の平均年齢：42.2歳、平均世帯人員：1.00人）

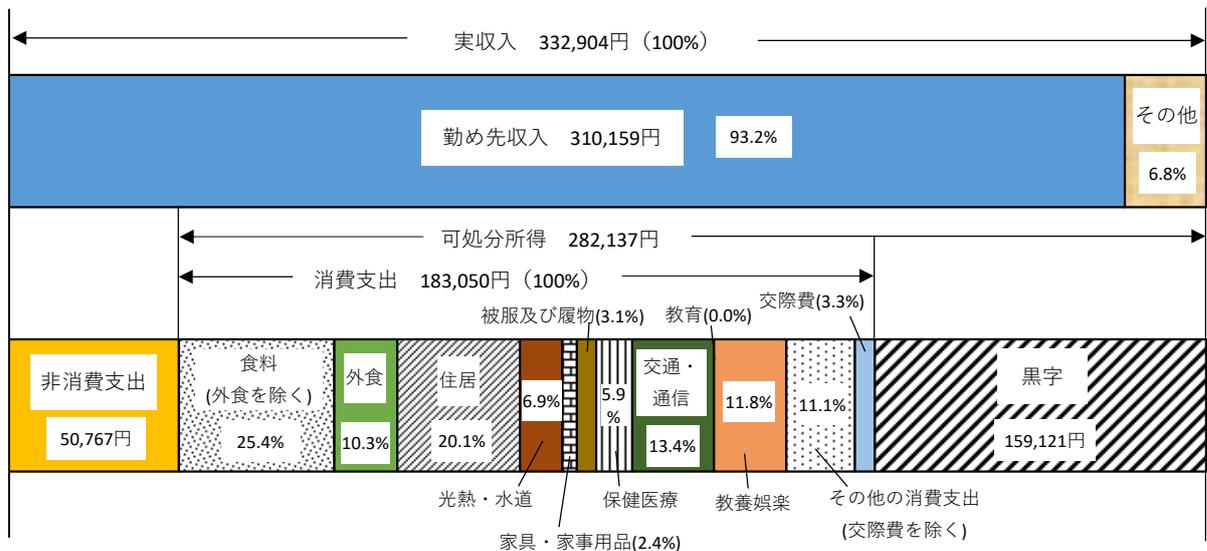
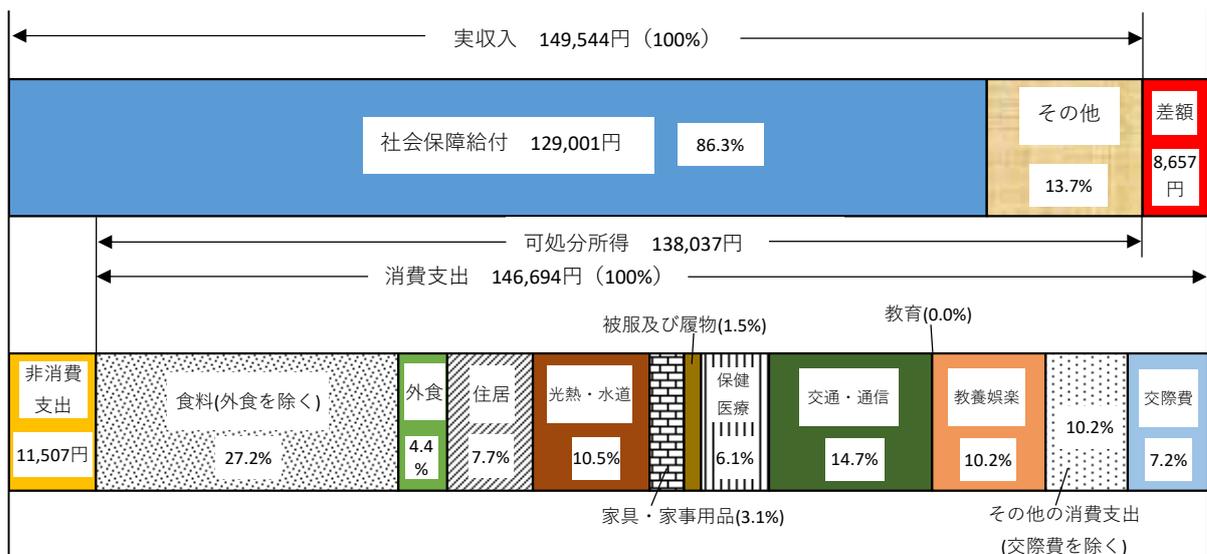


図3-4 無職世帯の実収入及び消費支出（単身世帯）

（世帯主の平均年齢：70.7歳、平均世帯人員：1.00人）

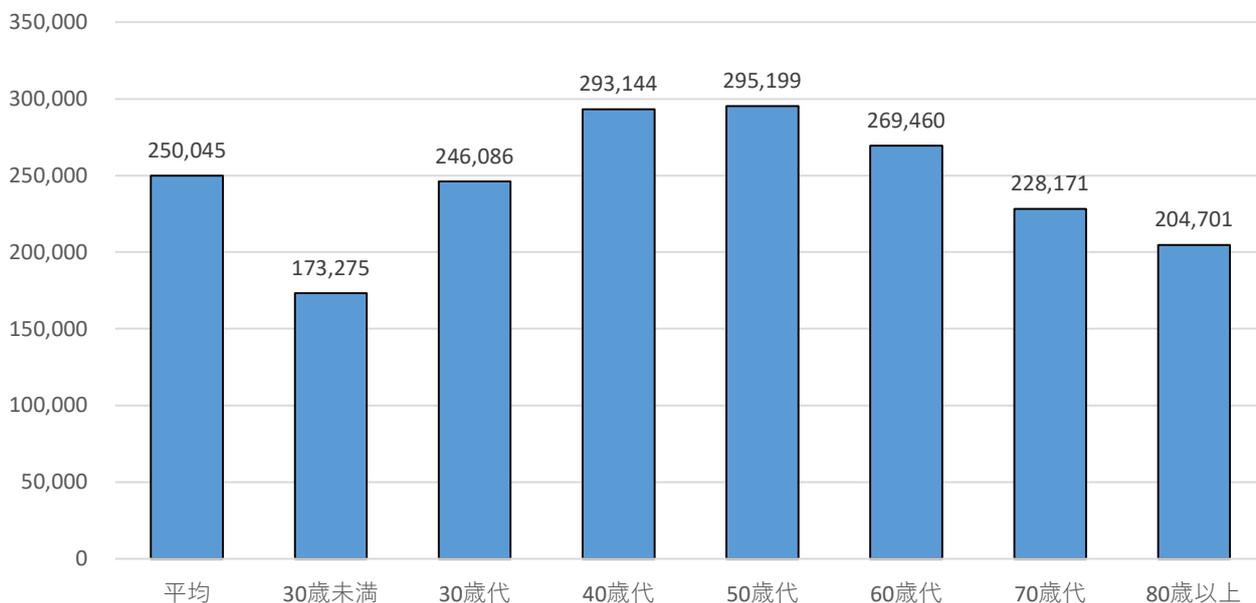


#### 4 世帯主の年齢階級

##### (1) 世帯主の年齢階級別にみた消費支出（総世帯）

総世帯の消費支出を世帯主の年齢階級別にみると、50歳代が295,199円と最も多くなっている。

図4-1 世帯主の年齢階級別消費支出（総世帯）



##### (2) 世帯主の年齢階級別の費目別消費支出の割合（総世帯）

費目別割合を世帯主の年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるに従って「食費(外食を除く)」の割合が高くなり、「外食」と「住居」の割合が低くなっている。

図4-2 世帯主の年齢階級別消費支出の費目構成（総世帯）

